



ラグランジア ‘ブライダルシャワー’ いよいよ来春発売

これまでの常識を覆す新品种アジサイ「ラグランジアブライダルシャワー」がいよいよ2020年春に発売される。(株)ハクサンがPW(プルーンウィナーズ)ブランドで展開する新品种は、同社の展示会などで話題を呼び、すでに来春出荷分の9割に予約が入り、残りはわずか。関心を持ったガーデンセンター、造園業者のみなさんは、早めの注文を！

アジサイの新たなカテゴリー

「ラグランジアブライダルシャワー」の特長は、すべての側芽(枝につく芽)に花がつくこと。枝の頂部にだけ花がつく、これまでのアジサイ園芸品種の概念を全く覆す性質を持っている。また、葉が小さいという特長もあり、一見ただけでは「これってアジサイ？」と疑ってしまうほどの画期的な新品种だ。

こうした特長から、ラグランジアは仕立て方次第で、さまざまな表情を見せてくれる。切り枝にすれば、ゴージャスなフラワーアレンジメントやコサージュに鉢やハンギングで楽しむ場合は、切り戻しをすればドーム状の株に花をいっぱいにつけ、切り戻しをしなければ、ユキヤナギのようにふんわりといただける自然な雰囲気だ。

この「切り戻しをしなくても楽しめる自然な雰囲気」は、個人庭や商業空間などの植栽でも活躍する。個人庭で今求められているのは、癒しを与えてくれる自然風庭園。ハクサンでは、「ナチュララ

イジング」(自然風な植栽)や「ファンデーションプランティング」(建物の基礎まわりの植栽)への活用を勧めている。

アジサイはもう難しくない

ラグランジアの画期的な点は、これまでユーザーが持っていた「アジサイの栽培は難しい」というイメージさえ変えることだ。母の日ギフトに使われて、アジサイの需要は近年大きく伸びた。その一方で、植物の栽培に慣れないユーザーには、母の日の後にどうすればいいかを悩むような状況も生まれている。

例えば、「剪定はどうすればいいの?」「水やりが大変で...」。ガーデンセンターの店頭や個人庭のメンテナンスをするスタッフなら、そんな悩みを聞いたことがないだろうか? すべての側芽に花がつくラグランジアなら、花芽がつく位置を細かく考えずに剪定しても、翌年もまた株いっぱいの花が楽しめる。

水やりについては、葉が従来の園芸品種に比べ1/4と小さくなったことで、

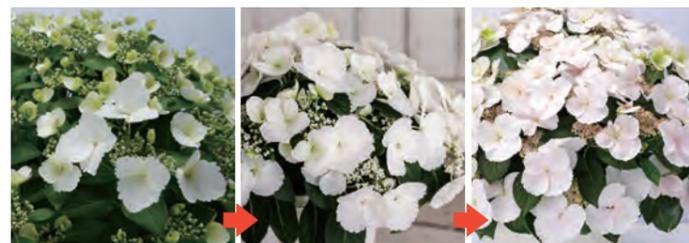
水分の蒸散量も従来の半分以下に。水管理にかかる手間が減ることは、鉢植えで楽しみたいユーザーにとっては特に大きな魅力になるはずだ。

ヨーロッパが再び認めた花

この画期的なアジサイ新品种は、坂寄潮さん(旬フロラトウエンティワン代表取締役)によって育種された。サフィニアやカリブラコアの生みの親として知られる坂寄さんは近年、「スーパーチュニア」などPWの人気品種を作出。その一方で、国内の野生種を親に使ったキイチゴの育種などにも取り組んできた。

ブライダルシャワーも、国内の野生種を片方の親に使った品種だ。そして、この日本の自然にあるアジサイから生まれた新品种は、2018年のチェルシーフラワーショウで新品种部門の金賞を獲得。主催するRHS(英国王立園芸協会)は、「アジサイの新しいカテゴリーを創る品種」と高く評価している。

かつて日本から渡ったアジサイは、欧州で品種改良されて多彩な園芸品種を生み出し、国内にも逆輸入された。それらとは全く異なるアジサイが今、再び欧州で評価された。販売は欧州が先行したが、日本でもいよいよ2020年3月から出荷が始まる。日本のユーザーがラグランジアをどう評価するか注目したい。



花色はライムグリーン→ホワイト→淡いピンクに変化



ハンギングバスケット、コサージュやフラワーアレンジなど用途は多彩



株いっぱい花を咲かせる

一般種と比べて水の消費量は半分以下



5/29 1180g



5/30 910g

西洋アジサイ一般種5号鉢
1日の水消費量
約270cc
※5/31には花が萎れてきた



5/29 1040g



5/30 920g

ラグランジア5号鉢
1日の水消費量
約120cc
※5/31にも十分な水を保っている

通常出荷商品

15cmプリントブラ鉢 6入
販売期間：3月下旬～5月中旬

市場出荷商品

15cmプリントブラ鉢 5入
販売期間：3月下旬～5月中旬



問い合わせ

ハクサン 営業部流通事業 TEL0561-75-7779 (直通)

育種家・坂寄潮さんに聞く

＝ラグランジア‘ブライダルシャワー’の魅力＝

ラグランジア‘ブライダルシャワー’を育種した坂寄潮さんに、育種の経緯と、このアジサイの魅力聞いた。

育種のきっかけは偶然から

「坂寄さんといえば、サフィニアを筆頭に、草本類の花の育種家というイメージがありました。花木のアジサイの育種もされていたのですね。」

花木はこれが初めてです。元々やるつもりもありませんでした。特にアジサイは、日本にも世界にも通用する育種家は何人もいます。これまでのアジサイのマーケットの中では、私が存在感を示せる余地はなかったですからね。

育種のきっかけは、本当に偶然でした。日本の遺伝資源を使った新しいキイチゴを育種しようというプロジェクトがあったので、資料を調べて山を歩いていた時、肝

心のキイチゴは見つからず、アジサイの間で面白そうなものがあった。「これ、いけるやん」と(笑)。

それを西洋アジサイと交配したら、従来のアジサイにはない性質のものができるわけですね。枝のトップにも、側芽にも全部花がついている。葉が小さいのもいいなと思いました。こういうものができるとは、全く予期していませんでした。

「確かに、ラグランジアはこれまでのアジサイのイメージを覆しました。」

ただ、育種家が「これはすごい」と思っても、商品化となると話は別です。どれだけ画期的でも、鳴かず飛ばずで終わる品種もありますから。それで、ハクサンと商品化を話し合っているうちに、先にヨーロッパでドーンと火花が上がった(笑)。

「チェルシーフラワーショーでの受賞ですね。」

その前にヨーロッパで販売が始まっていて、イギリスの種苗会社が出品したんです。新品種部門でゴールドをとるなんて思っていなかった(笑)。でも、RHSが大したものだなと思ったのは、「アジサイの新しいカテゴリーを創った」と品種の革新性を見抜いていたことですね。イングリッシュガーデンは、自然な雰囲気や伝統なので、派手さはないけれど、

日本人が今求めている植物は

「坂寄さんが考える、日本の消費者が今求めている植物とは？」

野性の力強さを感じさせながらもふわっとした柔らかい雰囲気を受け入れられたでしょう。イギリス人好みというか、こういう雰囲気は、今の日本人にも求められていると思います。

イノベーションを起こす品種

「最近、アジサイは母の日という印象がユーザーにも、業界にもありました。ラグランジアは、その固定観念を変えるかもしれません。」

プロダクトイノベーションを起こせるような品種をつくることは、育種家の一生のうちでそんなに経験できないことです。私の場合は、1回目サフィニア、2回目カリブラコア。3回目、このアジサイの新品種でしょうね。

「サフィニアは日本の花文化に大きな影響を与え、カリブラコアは坂寄さんが原種を発見し、確立したジャンルになりました。ラグランジアの革新性はそれに匹敵すると。」

そうですね。実はもう、第二世代も育っています。まだお見せできませんけど、手まり咲きで、ピンクとブルーの花色もつきます。側芽に花がついて株全体では6倍の花が咲くという品種が、手まり咲きになれば、それは豪華ですよ。

ブライダルシャワーがユーザーに受け入れられれば、競合も増えてくるでしょうから、もしかしたら、日本を含めて世界のアジサイのマーケットの3〜4割がこのタイプになるかもしれない。そうしたら、育種家として、これほどうれしいことはありません。



花は従来の6倍(ハクサンの既存品種との比較)。葉が小さいので、花色に派手さはなくても、華やかな雰囲気になる



側芽に花がつく、これまでにないアジサイ新品種



造園での使用例(愛知県)。5月1日には緑だった株が、5月30日には満開に



庭を自然な雰囲気です飾る鉢植え



坂寄潮さん (滋賀県東近江市の(株)フローラトゥエンティワン開発センターにて/9月上旬)



ヨーロッパのガーデンセンターでの販売風景



そして、RHSチェルシーフラワーショーでは、ラグランジアで新品種部門のゴールドメダルを獲得



アメリカ最大の園芸展示会 Cultivate 2017で、園芸マーケットの発展に貢献した人に与えられる特別な賞 Industry Achievement Award を受賞する坂寄さん